

# 平成 27 年度「英語能力判定テスト」における 東淀中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、教育振興基本計画\*に基づき、英語イノベーション事業\*の一環として、「英語能力判定テスト」を実施いたしました。このテストの目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることにあります。

学習指導要領における中学校英語の目標は、4 技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成と示されております。本テストで測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目 的
  - (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
  - (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象      大阪市立全中学校    生徒    1 ～ 3 年生

3 実 施 日      ・ 3 年 生              平成 27 年 10 月 29 日（木）  
                       ・ 2 年 生              平成 28 年    2 月    4 日（木）  
                       ・ 1 年 生              平成 28 年    2 月    5 日（金）

4 内 容

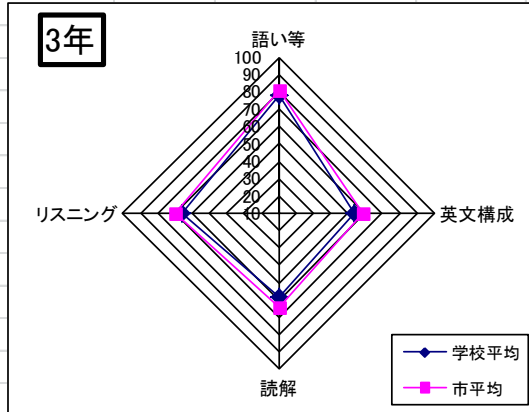
学年	テストの種類	テストの難易度	テスト内容		満点 スコア
			筆記問題	リスニング問題	
3 年	テスト D	英検 3 ～ 5 級レベル	50 題	30 題	460 点
2 年	テスト E	英検 4 ～ 5 級レベル	40 題	25 題	400 点
1 年	テスト F	英検 5 級レベル	25 題	25 題	340 点

\* 教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

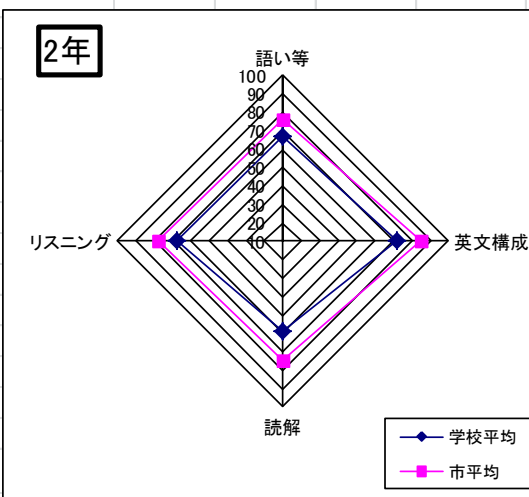
\* 英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

平成27年度「英語能力判定テスト」結果の概要と今後の取組 東淀中学校

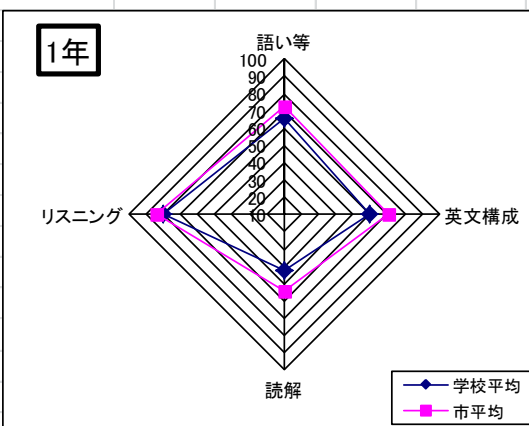
3年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	78	54.1	58.2	65.4
市平均	80.8	59.0	63.9	69.4



2年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	66.8	71.8	58.5	67.6
市平均	76.7	84.9	74.4	77.5



1年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	65.9	59.8	42.2	79.8
市平均	72.5	70.1	54.1	83.7



結果の概要と結果をふまえた今後の取組

※各学年において実施したテストはそれぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

**3年**

英検3～5級レベル:スコア 0～460点

《結果の概要》

全ての分野で大阪市の正答率を下回った。「英文構成」「読解」「リスニング」の3分野に関しては市平均から4～6ポイントの開きがあった。全体的な底上げが必要である。

《結果をふまえた今後の取組》

新出単語だけでなく、既習の単語も定期的に反復練習することで語い力をつける。ICT機器や視聴覚教材を積極的に取り入れ、英語と日本語の語順の違いや基本的な文法を定着させる。入試問題などの長文に親しむことで読解力の向上につなげる。C-NETの活用や授業中の英語の発話を増やすことでリスニング力の強化を図る。

**2年**

英検4～5級レベル:スコア 0～400点

《結果の概要》

「語い等」「リスニング」「読解」「英文構成」の4分野とも、大阪市平均には至らなかったが、どの分野にも偏りが見られず、均衡のとれた学習はできていると考えられる。

《結果をふまえた今後の取組》

常学習により、毎時間の取り組みを習慣化させ、授業の安定感を向上させる。これを土台とし、次に続く活動ではslow learner 向けのものと、fast learner 向けの2つを用意し、4分野のどれにも偏ることなく、全体的な学力の底上げを図る。

**1年**

英検5級レベル:スコア 0～340点

《結果の概要》

「語い力」「リスニング」については大阪市平均に近い正答率にはなったものの、すべての分野において下回る結果となった。

《結果をふまえた今後の取組》

小テストやリスニングテストを数多く実施し、基礎基本の定着に力を入れてきたため、その分野においては力がついているが、読解力の正答率の低さが大きな課題である。今後は長文問題にも多く取り組み、その向上を図っていきたい。